岐阜農林事務所の普及活動状況

令和２年６月２５日現在

今月の重点活動

■スマート農業　小麦の刈取作業にロボコンバインを使用

【ロボコンバインの麦刈】

瑞穂市巣南町の（農）巣南営農組合では、国のスマート農業技術開発実証プロジェクトの採択を受けて、水田における３年５作体系の構築に向け、各種スマート農業機械の実証試験を行っている。

６月は小麦の収穫とその後の耕起・代かき、さらに水稲の田植えを連続して行う時期となっている。実証試験では、この時期に無理なく農作業が進められるよう、アシスト運転機能付きアグリロボコンバインを初めて小麦の収穫に使用したことにより、梅雨入り前の限られた期間に刈取を終える事ができた。

農業普及課では実証ほ場の小麦で坪刈を行っており、今後ロボコンバインから得られる収量・蛋白質データとの比較を行うと共に作業時間の調査を行う予定である。

（地域支援第三係・松本　政行）

多様な担い手づくり

■指導農業士・青年農業士　感謝状の贈呈及び認定証を交付

６月 11 日から 22 日にかけ、岐阜農林事務所から昨年度で退任された管内の指導農業士や青年農業士７名へ感謝状と、今年度新たに認定された３名へ認定証を交付した。

毎年、県の農業士会通常総会の式典の中で贈呈、配布されるが、今回、新型コロナウイルスの感染防止のため総会が中止となり、各所属で対応したものである。

退任された７名は、長年にわたり、新規就農者の育成や地域の農業振興の牽引役として貢献していただいた。

今後、農業普及課では、新たな農業士の発掘と、各連絡協議会の活動を支援していく。

（地域支援第一係・鈴木　郁子・園芸産地支援第二係・三和　浩一）

■加工・業務用野菜　集落営農組織が加工タマネギを収穫

【加工タマネギの収穫】

本巣市の（農）アグリ石神は、水田の有効活用と水稲・小麦以外の農作業創出を目的に加工タマネギ 2.8ha を栽培している。今年は農業普及課の防除支援を基に病害発生を抑えることができ、昨年より収穫量が多い見込みである。

野菜栽培も低コスト・省力化を図るため、機械化体系を導入しており、収穫機械をリースし、鉄コンテナ出荷によって、収穫作業の簡略化と収穫後の選別・調整作業の時間短縮を図っている。今後は、タマネギ以外の他の加工・業務用野菜の栽培を提案する予定である。

（地域支援第三係・山田　奈巳）

売れるブランドづくり

■だいこん　JA ぎふ大根部会役員会開催

６月 12 日、JA ぎふ則武支店において役員会が開催され、春だいこんの販売実績や次年度産の生産・販売に向けた意見交換等が行われた。令和２年産の春だいこんの販売実績（則武・鷺山管内）は 411t（前年比 94%）、販売金額は 35,307 千円（同 110%）、平均単価は 86 円/kg（同 117%）であった。

３年連続で 100 円/kgを切る厳しい単価となり、生産意欲の減退、産地の衰退等が危惧される結果となった。農業普及課では今後も関係機関と連携しながら、担い手の確保を図りつつ、産地の課題解決に向けた支援活動を行っていく。

（園芸産地支援第一係・横田　京子）

■えだまめ　**えだまめ営農支援アプリ操作研修会の開催**

今年度より、JA ぎふでは、えだまめ部会の５名の生産者の協力により営農支援プラットフォーム「あい作®」の試験運用を行っている。

６月 15 日に導入生産者と関係機関でこれまでの運用での問題点や改善点について意見交換を行った。コロナ対策として、開発元の(株)NTT データは、ZOOM でのテレビ会議で参加された。農業普及課では、引き続き生産者への入力支援や操作性向上について提案を行っていく。

【研修会の様子】

（園芸産地支援第一係・高井　啓）

■花き　**県産花きによる花飾り支援**

６月 15 日から、県関係施設と市町村庁舎に県産花きの花飾りが開始された。これは、清流の国ぎふ花き戦略会議が事業実施主体となり、新型コロナウイルス感染症の影響で低迷している花きの消費拡大と PR を目的に行われている。農業普及課では管内生産者への周知や出品依頼調整など参加を呼び掛けるとともに、県民ふれあい会館での花飾りに関して依頼調整や維持管理を行っている。生産者や花飾り業者からは取り組みに対して評価を得ており、施設の来訪者の中には足を止め、花を観る方もあり癒しとなっている。

今後も、新型コロナ対策の総合的な支援を継続する。

【花飾り風景】

（園芸産地支援第一係・福田　富幸）

■カキ　**輸出に向けた取り組み支援**

６月 16 日、米国および豪州への柿輸出に取り組む生産者や関係機関を対象とした、栽培地検査補助員および選果技術員の研修会が県の主催で開催された。

米国および豪州への柿輸出は昨年に引き続き、瑞穂市の柿生産者１名が試験的に取り組むこととなっており、今回、生産予定地である現地ほ場での調査も行われた。

今後は県検査補助員による定期的にほ場検査が行われ、合格した場合、11 月の富有柿輸出に取り組む。

【現地調査の様子】

（園芸産地支援第二係・小枝　俊仁）

住みよい農村づくり

■六次産業化支援　**梅田建設が中日農業賞特別賞を受賞**

山県市でにんにくの特産化や耕作放棄地の解消に取り組む「美濃山県元気ファーム」を運営する梅田建設が、地域農業に貢献した若手農業者や団体を表彰する「第 79 回中日農業賞」の特別賞を受賞したため、６月 20 日に山県市役所で贈呈式が行われた。

梅田建設は、平成 20 年に農業分野に参入し、主軸の黒にんにくの他、地元産の果実を加工したドライフルーツを加工・販売している。特産品づくりへの一途な活動と女性の感性を活かした新たな商品づくりが評価されての受賞となった。農業普及課では、農業を通じた地域の活性化を引き続き支援していく。

【授賞式の様子】

（地域支援第三係・河合　浩子）